

物流博物館 NEWS

VOL.8

2005年7月25日発行

特集：物流博物館で楽しむ夏休み

梅雨も明け、楽しい夏がやってきました。物流博物館では、今年も夏休み期間中に恒例のイベントを企画しています。今号では、物流博物館の夏休み行事のほか、家族で楽しめる体験メニューなどを特集します。

コンテナターミナルの見学

昨年の小学生バス見学会で、東京港・青海のコンテナターミナルを見学した際のスナップ。巨大な外航コンテナ船を間近に見て、みんなびっくり。



夏休みイベント 小学生バス見学会

日時：8月22日（月）

午前9時：物流博物館集合

午後5時頃：品川駅にて解散

対象：小学校4・5・6年（定員20名）

費用：2000円（昼食代含む）

モノを運ぶ物流の現場を見てみよう！というバス見学会も今年で5回目。物流博物館の「現代の物流」展示室にある陸海空の物流ターミナルのジオラマを見た後に、実際の現場を探検に行きます。これまでは親子で楽しむイベントでしたが、今年はこどもだけで参加する催しとなります。

今年の行き先は、東京港コンテナ埠頭、JR貨物東京貨物ターミナル駅、羽田空港・機体整備工場、東京

港食品ターミナル（輸入果物の埠頭と冷蔵倉庫）。

掲載の写真は、昨年の見学会で東京港・青海のコンテナターミナルを見学した際のものですが、大きな海上コンテナが巨大なガントリークレーンで2～3分おきに船に積まれていくようすは圧巻です。

各現場では、担当者の方からくわしい説明を受け、質問もどんどん受け付けます。

夏休みイベント 段ボール工作教室

日時：8月20日（土）・27日（土）

午後1時～2時30分

午後3時～4時30分

対象：幼児から小学生（各回定員20名）

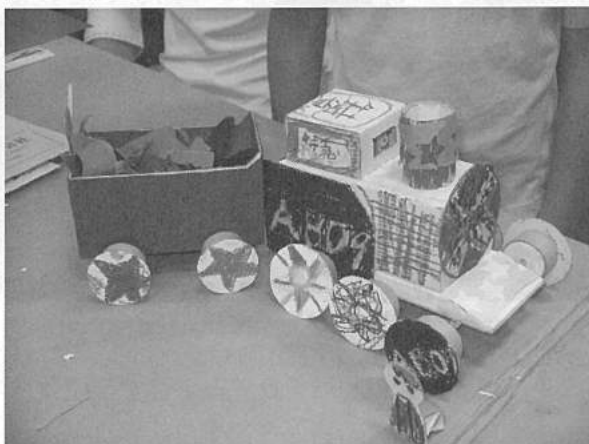
費用：入館料＋材料費100円

入館料：大人200円

物流と切っても切れない関係にある段ボールを使って、運ぶ乗り物を作る工作教室。これまで、トラックやトレイラ、宅配便の集配車、コンテナ船などいろいろなものを作ってきましたが、ここ何年かは主に鉄道の機関車（電気機関車・ディーゼル機関車・蒸気機関車など）を作っています。

写真は去年作った1・2年生向けの蒸気機関車の一例です。このほか、未就学児向け、3・4年生向け、5・6年生向けなど、年齢に応じた手作りの工作キットを用意しています。

物流博物館では、普段来館しても段ボール工作をすることができますが、夏休みの工作教室では、指導員のおにいさんやおねえさんと一緒に、家族みんなで工作を楽しむことができます。



段ボールの機関車に好きな色をぬったり、改造したりして、自分だけの運ぶ乗り物をつくってみよう。

夏休みのイベントに参加するには…

電話でお申込み下さい。

物流博物館 03-3280-1616

体験メニュー① 江戸時代の飛脚に变身

江戸時代に手紙や大事な荷物を運んだ飛脚。その飛脚の衣装を着てみるができます。ここで試着できるのは民間の飛脚の宰領（さいりょう）の衣装です。飛脚の宰領とは荷物を目的地まで運ぶ輸送責任者のことで、この衣装は、『東海道名所図会』という本に描かれた飛脚宰領の姿（走っていく飛脚ではなく、馬で運ぶ飛脚）をモデルにしています。服の上からでも着ることができますので、ぜひ变身してみてください。



写真左は試着したところ。三度笠をかぶり刀（道中差）を差します。右図は定飛脚（じょうひきゃく・江戸の飛脚仲間のこと）の宰領の姿。『東海道名所図絵』より。

体験メニュー② ふろしきで遊ぼう

モノを包み、同時に運ぶ道具ともなるふろしき。最近ではふろしきが1枚もないという家庭も増えていま



すが、いろいろな使い方ができ、見た目にも美しく、環境保護の点からも有用なふろしきが近年改めて見直されてきています。ワインなどの酒瓶を包んでギフト用にしたり、スイカを包んで運んだり、結び方次第で簡単にバッグやリュックサックになったりもします。

この体験では、ふろしきの使い方を習った後、図解ボードを見ながら彩りもきれいなふろしきで実際にさまざまなものを包んでみたり、バッグなどの結び方を学ぶことができます。

体験メニュー ほかにもいろいろ…

★変身キット 宅配便のドライバーに变身！

ヤマト運輸（宅急便）、佐川急便、日本通運（ペリカン便）の3社の宅配便ドライバーの制服（夏服・冬服上下、帽子、靴、ポーチなど一式）のほか、日本通運

の美術品輸送専用の制服を着ることができます。

実際に着てみると、制服にもこんな工夫があったのかとちょっとびっくり。あとで町中で同じ服を着ているドライバーさんに出会ったとき、不思議と親近感が湧いてきます。

★運びくらべ

天秤棒（てんびんぼう）や背負い梯子（せおいばしご）、頭上運搬、俵かつぎなどを体験できます。これは、小学校の社会科見学などでも人気の体験メニューです。



体験用なので荷物の重さは全て10kgにしてありますが、参考用においてある中身が本物と同じ60kgの俵は、決して無理に持ち上げないようにしてくださいね。とんでもないことになりますので・・・。

★縄がけ体験

木箱にワラ縄で縄がけをします。昔の荷物はたいてい縄がけしてありましたが、今では段ボール箱にガムテープを貼っておしまいですね。縄がけ自体なじみがないだけに、なかなか思うようにいきません。ぜひ挑戦してください。新聞をまとめる時にも役立ちますよ。

★ジャンボ物流パズル(小学校中学年まで)

新幹線を運ぶトレーラー、貨物用ジャンボ機、EF200電気機関車などのタタミ1畳分くらいある大きな写真パズルにチャレンジしてください。完成したら写真の解説をします。記念撮影も忘れずに。

★カーゴ君のはてなツアー(小学生まで)

クイズ用紙を受付でもらって、館内の展示を見ながら答えていく「カーゴ君のはてなツアー」。カーゴ君というのは、物流博物館のマスコットです。クイズに答え終わったら、受付で解説の紙をもらってください。



カーゴ君

そのほか、館内ではゲームやクイズ、オリジナルの18本のビデオ、鉄道や船、飛行機、トラックなどの模型やジオラマが楽しめるよ！

※イベントなどがある日は、場所などの関係で出来ない体験もあります。

2005年度 物流博物館カレンダー

○1月～12月の毎月1回(日曜日) 13時半～17時 映画上映会「映像で見る戦後日本の産業史」

主催：産業考古学会映像記録分科会・東京産業考古学会
協力：物流博物館

解説：吉原順平氏(映像・展示プランナー)

・毎月、テーマに基づき戦後日本の産業技術の歩みを産業映画により回顧します。8月以降のテーマは以下の通り(各回定員40名)。

8月7日：「鉄道とモータリゼーション」

「東海道新幹線」(1963)他2本

9月11日：「テレビと電話」

「衛星通信」(1970)他2本

10月9日：「新しい素材」

「私はナイロン」(1962)他2本

11月13日：「環境の時代」

「水の開拓者」(1966)他2本

12月11日：「ナノとデジタル」

「ナノワールドに挑む」(1989)他3本

※上映作品は変更する場合があります。詳しい内容は物流博物館にお問い合わせ頂るか、当館ホームページをご覧ください。なお、参加には電話申込みが必要です。

○2月12日(土)～4月16日(土)

「古文書講座～江戸時代の史料を読み、交通・物流の姿を探る～」(全6回・終了)

講師：交通史研究会会長 増田廣實先生

・伊能忠敬の測量旅行に関する古文書を読み、講義を受けました。

○4月23日(土)～6月19日(日)

企画展「企業が写した昭和の風景」(終了)

○8月18日(木)・19日(金) 各日10時/14時

「美術品梱包講座入門編」

講師：日本通運(株)美術品事業部 松木弘先生

・陶器の壺や置物を、特殊な材料を使って梱包します。美術品輸送の業務に関する解説もあります。

○8月20日(土)・27日(土)

「ダンボール工作教室」 各日13時/15時

○8月22日(月)

「小学生バス見学会」 9時～17時頃

○10月22日(土)

「ごてんやまファミリーフェスタ」に参加

・品川区御殿山小学校と児童館のお祭りに参加。

○12月17日(土)・18日(日)

「サンタクロース映画会」

・プレゼントを運ぶサンタにちなんだ映画を上映。

○1月～2月(日程未定)

「ロジスティクスセミナー」

・日本通運株式会社と共催のセミナー。

○毎月第2・第4土曜日

「高輪伝馬の会」(古文書学習会)

・古文書講座から発足した自主的な勉強会です。どなたでも参加できます。詳しくは物流博物館まで。

昨年度の学校見学

2004年度の学校団体入館者データ

小学校：30校・1929名／中学校：28校・193名
 その他学校：9校・268名／学校計：67校・2390名
 2004年度全体入館者数：6942名

2004年度は、前年度に比べ、団体見学数、全体入館者数とも減少しましたが、反面、大人数の見学ではなく、1～2クラスで、見学時間にも余裕をもって来館される学校が増加したという印象があります。見学の方法も、学芸員の説明を聞くだけでなく、体験を重視し、ワークシートも自分たちで展示資料を観察しながら書き込んでいくタイプの使用が増えました。

そこで、年度の途中で「物流の歴史」展示室のワークシートのうち、観察型のカード式シートを改訂して、より記入しやすくしてみました。当館では小学校5年生の社会科見学が小学校の団体見学のほとんどを占めていますが、まだ歴史を習っていない5年生にもより理解しやすくなったのではないかと思います。「物流」のあゆみを知ることで、現代の産業の成り立ちの一側面を示せるのではないかと考えています。

ワークシートは物流博物館のホームページからダウンロードすることができます。

	1組	2組
30分	現代物流のビデオ2本を上映	
30分	昼食	
15分	昭和20年代の物を運ぶ映像の上映	
1時間	体験：ふろしきで包もう／運びくらべ	物流の歴史展示室／現代の物流展示室を見学
1時間	物流の歴史展示室／現代の物流展示室を見学	体験：ふろしきで包もう／運びくらべ
35分	フリータイム	
10分	質問タイム	

見学の時間割の一事例。この学校の場合、昼食を含め4時間をかけて見学したので、盛りだくさんの内容となっています。通常の団体見学の場合、見学時間は1時間半から2時間が標準的です。

一口メモ～物流博物館の近くの見どころ情報～

- ① 食の文化ライブラリー展示室(味の素 食の文化センター)
港区高輪 3-13-65 TEL 03-5488-7319 月～土開館
- ② ユニセフハウス(ユニセフの活動を紹介した展示室あり)
港区高輪 4-6-12 TEL 学校団体:03-5789-2014
一般団体:03-5789-2013 月～金、第2・4土開館
- ③ エフソン品川アクアスタジアム(水族館ほか)
港区高輪 4-10-30 TEL (03)5421-1111 休館日なし

2005年 企画展 企業が写した昭和の風景



三輪トラックと休憩中の配達員 1960年

4月23日～6月19日まで、企画展「企業が写した昭和の風景」を開催しました。

この展示は、日本通運㈱の社内報や同社の広報・宣伝用に撮影されてきた写真コレクションが当館に移管されたのを機会に開催されたもので、膨大な写真の中から昭和30～40年代に撮影された約300点を選んで展示したものです。

展示写真は、物流現場での作業風景のほか、当時のさまざまな社員の一日を追った組写真、社員の家族写真、時代を象徴するイベントや出来事の写真、かつてあった都市や農村などの風景、こどもたちのいる風景などで、「一企業が企業活動の中でとらえた昭和30～40年代」という視点で写真を選びました。一見地味なテーマではありましたが、近年「昭和30年代」が注目を集めていることもあり、特別展・企画展では最多の入館者数を記録した展示となりました。

これらの豊富な写真資料を今後どのように生かしていくかが、展示後の検討課題となっています。

物流博物館について

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15
 Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385
<http://www.lmuse.or.jp>



開館時間 午前10時～午後5時
 休館日 毎週月曜日(但し月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日)
 毎月第4火曜日、祝日の翌日(土日を除く)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 入館料 小中学生：100円(土曜日無料)
 (小学生は平日も無料)
 高校生以上：200円
 ※学校関係の団体は入館料が免除になります。